

---

令和5年 第3回 対馬市議会定例会会議録(第3日)

令和5年9月14日(木曜日)

---

議事日程(第3号)

令和5年9月14日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

---

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

---

出席議員(17名)

1番 糸瀬 雅之君	2番 陶山荘太郎君
3番 神宮 保夫君	4番 島居 真吾君
5番 坂本 充弘君	6番 伊原 徹君
7番 入江 有紀君	8番 船越 洋一君
9番 脇本 啓喜君	10番 小島 徳重君
11番 黒田 昭雄君	13番 波田 政和君
14番 小宮 教義君	16番 大浦 孝司君
17番 作元 義文君	18番 春田 新一君
19番 初村 久藏君	

---

欠席議員(2名)

12番 小田 昭人君	15番 上野洋次郎君
------------	------------

---

欠 員(なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長	國分 幸和君	次長	平間 博文君
課長補佐	糸瀬 博隆君	係長	犬束 興樹君

---

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮 努君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	阿比留忠明君
市民生活部長	村井 英哉君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	内山 歩君
水道局長	舍利倉政司君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	原田 武茂君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
美津島行政サービスセンター所長	藤田 浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村 雅昭君
上県行政サービスセンター所長	田村 竜一君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

---

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

報告します。小田昭人君及び上野洋次郎君から欠席の届出がっております。

ただいまから、議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 市政一般質問**

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、2人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） おはようございます。5番議員、新政会の坂本充弘でございます。

12日の本会議が終わりまして、昨日から一般質問が始まりました。今日は、私と大浦議員がさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い質問に入らせていただきます。

1項目めは、市長選3期目出馬の決断について、2項目めは、国県道の早急な整備について、3項目めは、旅行者等に対するごみの回収方法についてでございます。

以上の3項目についてお尋ねをいたします。

1項目めの市長選3期目出馬の決断についてでございますが、比田勝市長におかれましては、今、非常に頭の痛いところだと思っております。今回、この質問をするのは誠に申し訳ないような気がいたします。しかしながら、多くの市民の皆様から御支援をいただき、2期目の当選をされてから、任期が早くもあと半年ばかりを残すこととなりました。1期目を終える頃に、日韓関係の悪化、また、新型コロナウイルス感染の流行により、様々な施策を実行されてまいりましたが、この対馬市には、まだまだいろんな問題が山積しております。

日韓関係については、韓国の大統領も替わり、観光客も徐々に増加してきております。世界第6位の広大な排他的経済水域を有している日本は、300を超える有人離島が基点となっております。特に国境に接する対馬は、古代から国防の拠点であり、新しい文化を受け入れる玄関口の役割を果たしてきました。国境離島として、その必要性は言うまでもありませんが、我々のこの対馬市、人口の減少、過疎高齢化が続いております。何とかしなければできません。

ここに、2020年3月6日付の市長の2期目の当選を掲載した対馬新聞があります。ちょっと記事を朗読させていただきます。字が小さいので、もうあらかじめ打ち替えております。

比田勝尚喜氏が再選果たす。市民とワンチーム。持続可能な豊かな島づくり。

3月1日、任期満了に伴う対馬市長選挙の投票が島内103か所で行われ、即日開票の結果、現職の比田勝尚喜氏（65歳、無所属）が、新人の荒巻靖彦氏（55歳、無所属）を破り再選を果たした。

守・破・離の最終段階、「離」の境地を目指して。

当選確定後、比田勝氏は、皆様のおかげで2期目の当選をさせていただきましたとお礼を述べた後、この1週間、対馬の隅々まで走り回り、今、対馬の喫緊の課題は人口減少問題。このまま放置すれば、2035年には、1万9,000人程度に減少すると推定されている。今後、様々な施策を展開していくことを心に誓っています。そして、この対馬に生まれてよかった、住んでよかったと思えるような、子どもから高齢者までが暮らしやすい対馬市を構築していきます。

また、観光産業については、韓国人観光客の激減で大変な状況ですが、対馬の農林水産業と観光の連携があってこそ、これからの対馬の観光産業が発展するものと思っている。対馬の食と観光をマッチングさせながら、対馬の観光産業を磨き上げていきたい。そして、市議会とスクラムを組み、市民とワンチームとなった持続可能な豊かな島づくりを目指してまいりたい。

このたび、私は、剣道の考え方で、「守・破・離」という言葉を使わせていただきました。この2期目につきましては、守・破・離の段階の最終段階、「離」の境地を目指して、対馬の活性化、発展のために、一生懸命に努力していきたいと思っています。

今後とも皆様方のさらなる御支援、御協力をお願いしますと話している。

このような記事でした。これから3年半が経過しましたが、市長自身は、任期を終えるまでに、「離」の境地を極める完成度はどのぐらいだとお考えでしょうか。

初日の本会議においては、高レベル放射性廃棄物の最終処分場に係る請願審査の採択がなされ、こちらのほうの決断もしなければならぬと思いますが、市長の誠実な人柄と、責任ある政治姿勢をもって指導力を発揮され、ぜひ3期目の出馬について決断頂きたいと思っております。

私は、島の将来を救っていただけるのは、長い職員時代から副市長、市長2期8年間の実績と、県、国へのパイプを持っておられる比田勝市長だと思っております。市長のお考えをお伺いいたします。

2項目めは、国県道の早急な整備についてでございます。

道路の整備拡充については、進行しているのは承知しているところではありますが、現在、韓国人観光客の増加により、大型バスやレンタカーなどの運行が急激に多くなっているところがあります。国道も県道も工事が進んでいる箇所はありますが、まだまだ2車線化ができていないところがあります。

対馬縦貫道路は、比田勝から厳原町豆敷間の全長約110キロ程度で、対馬を南北に縦断する国道382号線と県道24号線の大部分から成っております。大正4年に測量が始まり、同7年に比田勝を起点に着工されましたが、大正12年に関東大震災が起これり中断されました。

以来、再開されることなく時が流れ、第2次大戦が終わり、戦災復旧が一段落した昭和26年、国の総合開発計画に指定され、昭和28年離島振興法の成立により、対馬縦貫道の開発が復活しました。昭和31年には、2代目万関橋が架けられ、昭和43年春、美津島町の旧濃部トンネルの完成で、全線が開通いたしました。着工から50年の歳月がたっていました。

その後、知事も久保知事、高田知事、金子知事、中村知事、そして現在、大石知事へと受け継がれ、着々と工事が進んできておりますが、いまだ国道の2車線化が実現されておられません。昭和43年の開通から55年の歳月が流れました。できるだけ早急に整備が必要と思いますが、進捗状況についてお伺いいたします。

3項目めは、旅行者等に対するごみの回収方法についてでございます。

旅行者等のごみが後を絶たない現状であります。例えば、サイクリングで移動されてある方は、ホテルなどをチェックアウトされてから、昼食のお弁当を買われて、途中で食べられても処分するところがない。どこかにごみ箱を設置しなければならないと思います。何らかの対策が必要であると思いますが、市の考え方を伺います。

以上、3項目についてお尋ねいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。坂本議員の質問にお答えいたします。

初めに、1点目の市長選3期目出馬の決断についてでございますけども、対馬市には人口減少対策、そして産業の振興、育成など、課題が山積している状況でございます。

また、近況では、対馬市の将来を左右する高レベル放射線廃棄物最終処分場関連について、多くの議論があっており非常に難しい問題であります。

これまで2期、対馬市のかじ取りを担ってきたわけでありまして、私自身、これまでの政策、取組などを顧み、また、対馬市の将来を見据えながら、3期目の出馬に向けて前向きに検討をしているところでございます。そのようなことから、近い時期に正式に発表をいたしたいと考えております。

それから、私の心情でございます「守・破・離」の境地での進捗率ほどのくらいかというような質問もございましたけども、この「離」の境地の中で、予測つかなかった新型コロナウイルス感染症等の蔓延によりまして、私自身、満足な進捗が図れなかったということは事実であろうというふうに思っております。

次に、2点目の国道382号をはじめとする早急な道路整備の必要性についてでございますが、国の新型コロナウイルス感染症対策の緩和とともに、国内旅行者も昨年から増加傾向にあり、また、本年の5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが、いわゆる2類相当から5類感染症に移行したことにより、国外からの旅行者も増加しております。それらに比例し、議員御指摘のとおり、大型バスの往来やレンタカーも目立つようになってまいりました。これらは市にとりましても大変喜ばしいことだと感じております。

国県道の整備につきましては、平成28年度に、国県道路等整備促進特別委員会によりまとめいただきました要望事項に沿う形で整備を進めていただいているところでございます。所管いたします対馬振興局道路課並びに上県土木出張所におかれましては、現在、国道382号6区間、主要地方道6区間、一般県道3区間の道路工事、またこれらに加え、危険箇所の災害防除工事などに取り組んでいただいております。それらの工事におきましては、多数の関係者の御協力、御理解が必要となりますので、思うような進捗が図れない場合があると伺っているところでござい

ます。

私も事業の推進につきましては、県知事要望をはじめ、常々、話をさせていただいております。先般、対馬で開催されました長崎県議会離島・半島地域振興特別委員会で、県議会議員が10名来島されました。その際に、挨拶をする機会がありましたので、ぜひ、対馬の道路の現状を見ていただき、今後の整備へ御協力をお願いしますというふうに、強くお願いをしたところでございます。

また、視察におきましては、狭隘な部分が多々残っていることを確認していただいたと伺っております。市といたしましても、引き続き、県と協議を重ね、事業の進捗に協力しながら、本市の強靱化に努めてまいります。

3点目の旅行者等に対するごみの回収方法についてでございますが、議員御指摘のとおり、道路脇や山中にポイ捨てや不法投棄が後を絶たない状況であります。対馬市では、広報誌、ケーブルテレビで啓発を図るとともに、保健所や警察、海上保安部と連携して、毎年、合同監視パトロールを実施しております。

また、海岸漂着物の発生抑制対策として、パトロール員4名を雇用し、監視と回収活動を行っております。

旅行者、特に韓国人観光客向けには、国際船内でのDVD放映に加え、船内フロアに、対馬での旅行中における注意事項を記載したチラシを設置し、ごみ処理に対する啓発を行っております。

御存じのとおり、集落内や観光地等へのごみ箱の設置につきましては、生活ごみの投入や景観の悪化を招きますので、設置はしておりません。観光客のごみ問題についても、基本的に持ち帰ってもらうことが前提であり、宿泊所、もしくは港のターミナルなどで捨てていただくこととなります。

ごみのポイ捨ては、個人のモラルの問題でありますので、非常に難しい問題ではありますが、引き続き、マナー遵守の呼びかけを様々な媒体を通じて継続してまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。

順番を今度は逆にして、ごみのほうから行きたいと思います。

ごみの回収方法でございますが、サイクリングをしている旅行者が、レストラン等の食事処で食事をされなくて、スーパーなんかでお弁当を買って、そこで昼食を取る。実際そういうことがあっているわけです。そこで、やっぱりサイクリングをされている方は、あまり距離が遠いために持ち帰らないんです、現実には。ごみ箱がどこかにあれば、やっぱりそのマナーを持っておられると思いますので、そこに入れるようにできると思うんです。

車で動いてある方は車の中に置いて、最後のレンタカーを返すときにごみの処理ができるかも分かりませんが、サイクリングで来られた方やオートバイの方は、やっぱり最後まで持って帰らないんです。

そして旅行者は、船に乗るときにはごみを持って上がりません。特に韓国人の観光客は、やっぱり船の中までは自分のごみを持って帰ることはいたしませんので、何とかごみの処分ができるような体制、そこを検討していただきたいと思います。

マナー遵守の指導をするのは、もうできていると思うんです。やはり設置するところをつくらないと、ポイ捨ては止まらないと思います。東西南北、もう比田勝から巖原までの距離の中で、仮に真ん中ぐらいで昼食を取るといことでしますと、もうそのごみを引き取ってくれるところがないわけです。島民なら自分の家に持ち帰ることができます。旅行者は捨てるところがないんです。本土の駅の中なんかは、ゴミ箱がいっぱい設置してあります。そこはペットボトルも缶も、利用者が全部捨てておりますけれども、屋内ですからそれができるかもわかりませんが、こういうサイクリングの旅行者に対して、持ち帰れと言っても持ち帰るところがない。その点、どうお考えでしょうか。御答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども答弁いたしましたように、このことについては大変難しい問題というふうに捉えているところでございます。

私自身も上のほうの実家にたまに帰ったときに、道路脇のごみ収積箱の中を見てみますと、ごみ収集日ではないのに、たまにそういった食べ物等の残りを捨ててあるというのを実際に見てきました。

そういう中、議員御指摘のように、途中にごみ箱をどうかして設置できないかということですが、我々行政といたしましても、何らかの形でごみ箱の設置ができればいいんですけども、今度は、そのごみ箱に対して旅行客じゃなくても、一般の方たちが家庭ごみをそこにまた入れたとしますと、そのごみがカラスや猫等で、また散乱をするというような心配もされるところでございますので、今現在は、できれば、ごみ袋等を提供することは可能でございますので、途中で食事等をされて、そのごみ等がたまった際には、途中のスーパーマーケットとか、そういったところで御協力をお願いいたしまして、収集ができないかなというふうには、我々の中では協議はしているところでございますので、今後、どのような形が一番望ましいのかということにつきましては、今後もしっかりとそこは検討をして、ごみ処理問題について進めてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 市長の言われるのもごもつともであります。しかし、ナイロンの袋の提供があっても、引き取る場所、これが確立されていないんです。最後に持っていく場所がない。これは、そういうところを設置しなければ解決しない問題だと思うんです。対馬市はSDGs、ごみゼロアイランド対馬宣言、これをやっていると思います。

部長のほうにお尋ねをいたします。部長の考えはどのような考えか、何か施策はありませんでしょうか。よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市民生活部長、村井英哉君。

○市民生活部長（村井 英哉君） お答えいたします。

坂本議員、御発言のとおり、ごみゼロアイランド対馬宣言ということで、対馬中のごみをなくして、きれいなリサイクルのできるまちにということでございますけれども、今、市長のほうからありましたように、やっぱりごみ箱等、島内、今、特に山中とか死角になるところには、そういった形でサイクリングの方々も、空であればもう荷物になりますので、やっぱりそこに捨てるというよりも置いていこうと、心なくでなくて、場所がないからということかもしれません。

しかし、市長が申しますように、適度なところにごみ箱を設置したりしましても、そうしますと、今度は島内の方々も含めて、いろんなごみの投棄ということも含めて、そういったことも起こります。そうしますと、それをまた回収するということも新たに確立しなければいけないというようなこと等もありますので、もう議員御指摘のとおり、SDGsという観点からしますと、一番の弱点といいますか、弱いところを突かれておりますけれども、そこはもう、我々、部、それからSDGsのしまづくりの部長等とも、また協議をしながら、何か具体策がないかというふうにやっっていこうと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 矛盾していると思うんです、宣言と。結局、確立されていない。ここは本当に課題だと思います。今後、検討をよろしく願いいたします。

スーパーなんかで、もしお弁当なんかを買ったら、そのときはナイロン袋の配布があるかもわかりませんが、今、有償になっていますよね。こういう関係も無償にしてもらいたいような体制が取れないか、そして、食事をどこかでされたときに、ごみを持ち帰れるように、どこか近く、スーパーが離れたら、ちょっと元の買ったところのスーパーに戻せないときがありますよね、コースが違ったら。そういうところも考慮して、今後、検討をしていただきたいと思います。やっぱりごみのゼロ宣言をしている対馬市がこういう状態ではいけないと思うんです。その点、今後、検討をよろしく願いいたします。

それでは2点目の、国県道の早急な整備についての質問に入らせていただきます。

市長から先ほど説明がありました。その中で私が気になっているところがありますので、現在、工事中の仁田の檜滝地区、ここと畠ヶ浦地区について、もう少し詳しくお願いできないでしょうか。部長さんでも結構です。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） 今、御質問の国道382号、檜滝工区と畠ヶ浦工区ということで、具体的な進捗率につきましてですけれども、対馬振興局のほうに一応お伺いしたのが、まず、檜滝工区、こちらは檜滝の拡幅工事ということで、計画延長が2.6キロメートル、進捗率は約60%と伺っております。

次に、畠ヶ浦工区、こちらは畠ヶ浦バイパスとして整備を行っております。計画延長が1.4キロメートルで、平成28年度に事業着手し、進捗率は約20%というふうに伺っております。

国県道につきましては、平成28年度から毎年、県知事要望において整備促進の要望を行っているところでございます。先ほどの市長からの答弁もありましたとおり、建設部といたしましても、引き続き、要望書の提出と併せまして、県と協議を重ね、事業の進捗に協力をしながら、本市の強靱化に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 説明ありがとうございます。

今、進捗率を伺いましたけれども、仁田の檜滝地区が60%、畠ヶ浦地区が20%ということですが、この両地区、あとどのぐらいの年数と距離がかかるのでしょうか。予想として分かるならお教えてください。

○議長（初村 久藏君） 建設部長、内山歩君。

○建設部長（内山 歩君） あとどれくらいかかるのかというところで、長崎県に、一応、この件についてお伺いしたんですけれども、やはり事業規模が大きいということで、いろいろ社会情勢とかによって完成年度が大きく変わる可能性があるということで、その分についてはちょっと差し控えたいということで、県のほうからお話っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 県との協議がある以上、こちらのほうでできることではありませぬので、協議を今後やっていかなければできないと思います。その点については、もうお願いするしかありませんので、よろしく願いいたします。

対馬を離れて、他の自治体のほうへ行ったときに、やっぱり新聞なんかにも載るとき、道路整

備に関する国や県の陳情、これは道路の2車線化ぐらいのレベルでなくて、もう総合的な大きな道路整備の陳情が新聞等に載っているときがあるんです。南島原、西海、そういうところがありますけれども、対馬の道路整備については、人口の少ない面もあるかも知れませんが、金額的にも、対馬の工事は高いということを素人ながら私も聞いております。そういう中を考慮して、やっぱり県のほうと協議するときにも、強い話がやっぱり必要じゃないかなとは思いますが、その辺、市長、どういうふうにお考えか、少し聞かせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この道路等の整備につきましては、市長会のほうでも熱い議論が交わされておりますけれども、議員、今、御指摘の南島原道路とか、松浦、西海、ここら辺の主要幹線道路等につきましては、長崎県のほうも事業の進捗にももちろん力も入れているところでございますし、かといって、対馬の道路とか、五島・壱岐の道路とか、そういった2級国道をないがしろにしているわけではない。それなりに整備の進捗を図るための努力をさせていただいているということでございます。

そこで、私たちといたしましても、このことについては、やはり、この前も県議会の離島・半島振興特別委員会の皆様に強くお願いをしたように、今後も、この市民の声をもっともって伝えていく必要があるのではなかろうかというふうに思っております。

ちなみに、先ほど申しました、離島・半島振興特別委員会の議員の皆様が、やはり市長が、対馬の現況で狭隘なところがあるという話をしていたけど、ここがそうなんだなということで、やはりここは早く整備をしなくちゃいけないというような話を、そのときにバスの中でされていたというような報告を聞いておりますので、今後も力強く要望を重ねてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 今後も市長に期待がかかっていると思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、一番最初の3期目出馬の決断についてでございますが、先ほどの答弁で、前向きに考えているということをおっしゃっていただきました。ありがとうございます。まだ結論自体は聞かされておきませんが、本当に私は一番最適な人材ではないかなということで、強くそういうふうに思っておりますので、現実に決断を今後、待ちたいと思います。

市長が1期目就任された平成28年4月20日に有人国境離島法が成立しました。平成29年の4月1日より施行されております。それにより、航路・航空路の大幅な運賃の引下げが行われました。そして、農水産物の輸送費用も軽減されて、雇用機会拡充の推進、滞在型観光の促進な

どが実行されてきたわけです。

ここに市長のリーフレットもありますけれども、豊かな島へのビクトリーロード、5つの拡大戦略。1、働く、産業・所得の拡大、2、迎える、交流人口の拡大、3、整える、快適生活環境の拡大、4、健やか、健康福祉、5、育てる、人づくり・教育の拡大。

小さな内容については省略しますが、まだ実行されていないものがあります。2、迎えるの中で、交流人口の拡大の中で、島外来訪者の割引制度の導入です。これは、昨日、糸瀬議員より質問がありました。これは、対馬出身者だけでも何とか糸口が見えるように、今後、努力をさせていただきたいと思っております。

そして、3、整える、快適生活環境の拡大の中でというところで、比田勝港と巖原港の連携統合した港づくり、これと、対馬空港の滑走路延長、これがまだ完遂されておられません。残り任期中には間に合わないと思うのですが、比田勝港と巖原港の連携した統合した港づくりと、対馬空港の滑走路延長、この件の考え方は、市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず1点目の比田勝港と巖原港の統合という問題でございますけれども、この問題につきましては、県を通じまして国交省のほうにも話をさせていただいておりますけれども、なかなかすぐには、この問題は解決することは大変難しいところでございます。

しかしながら、やっぱり国交省の方とも話をしていく中で、その必要性につきましては、一部理解もしていただいているところもございますので、今後も、可能な限りいろいろとその実現に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

それから、対馬空港の滑走路の延長でございますけれども、まず、あと100メートルほどの滑走路延長をずっとお願いをしておりますが、なかなか地形的な問題もありますし、いまだ実現はしていません。しかしながら、航空法上のリーサを確保するというところで、空港の東側のほうを、まず40メートル、80メートル、まず確保をするということで、今、計画が進んでいるところでございますので、また正式に決まれば発表をさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

詳しいことは部長のほうから説明させていただきます。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 今、市長が申しました滑走路のリーサの件だけ、少しだけ。

これは滑走路の延長ということではないんですけども、滑走路の前後の安全基準の確保の延長が変わりまして、現状からプラス50メートル確保する法律に変わっておりますので、それに合

わせて、西側は既に用地があるので確保できているんですけども、東側が確保できないということで、少し埋立て等も入った形で、滑走路の延長ではないんですけども、施設自体の延長が少し長くなるというところで、これも事業主体は県になりますので、まだいつ着工するかとかいったところまではまだ決まっておられません。ただ、計画としてはございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） ありがとうございます。ぜひ引き続き、市長の手腕によってさらに新たな息を吹き込んで、対馬の道を極め、「離」の境地を目指して頑張っていただきたいと思っています。

公約どおりこれができますように、私のほうも頑張っていきたいと思いますので、市長の出馬の決断、前向きにとおっしゃいましたけども、最後に一言、よろしく願います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 最後ということでございますけども、今、申し上げたとおり、また正式には後日、発表させていただきたいという思いでございます。

○議長（初村 久藏君） 5番、坂本充弘君。

○議員（5番 坂本 充弘君） 分かりました。結論は期待しておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

これで私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、坂本充弘君の質問は終わりました。

.....  
○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時50分休憩

.....  
午前11時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆さん、おはようございます。

私は今回の一般質問は、7月の中旬以降にある電話がございました。これは大型観光バスの乗降です。お客を乗り降ろしする、こういうことなんですけど、このことで、現在、ちょうどふれあい処つしまの向かい側の交番の右側、ここが1か所、僅か1か所、そこで乗り降りしてくださいよと、しかも所要時間を5分以内にしてほしいという内容でした。

そういうことが、現在、調べてみれば、60台の観光大型バスがおります。そのようなことが

できづらいという中で、仕方なく乗降を市庁舎、市の前でやったんだろうが、南署の交通課のほうから取締りが入りまして、今度、二度とやれば切符を切るよというふうなことを言われたそうです。

それで、この問題は、過去、令和3年第3回定例会、船越議員、それと、令和4年第1回定例会、春田議員、同じような質問を同じ内容ですることはよくありませんから、私なりにもう少し進めたというより、先を思い切ったかじを取るべき思いで、市長に問うてみたいと思うんですが、よろしく願いいたします。

金石城跡地の活用について。

この件については、過去、令和3年第3回定例会、令和4年第1回定例会において、博物館建設後、旧巖原幼稚園跡地に大型バスを中心とする駐車場としての利用について、かなり強い熱望でありました。そういう発言を聞いております。このことは、いまだに合意に達しておらず、本年3月中旬以降、コロナによる入国措置は緩和され、韓国観光客も徐々に増加の傾向にある。

先ほどのことですが、1か月半前に、市役所前道路で大型バスの乗降に警察の取締りがあり、業者は不満を持っているようにあります。現在、交番前の1か所を乗降場所としているが、市は現状の認識に欠けているのではなかろうかと私は思います。

令和4年第1回定例会一般質問の折、市長答弁では、委員会、文化庁のハードルが高いような発言を私なりに取っておるんですが、この点については、バス業者、対馬市、委員会、文化庁、おのおのの言い分がございましょうが、再度テーブルに着いて、一から話し合う必要があると思いますが、市長の意見を本日、再度、1回、2回終わった話でしょうが、再度話を賜りたいと思います。

次に、峰公認陸上競技場の利用状況について。

従来型のグラウンドに対し、全天候型トラックの新設後の利用状況、効果、このことについてお尋ねをいたします。

また一方で、中学駅伝大会について、この会場が以前、利用されておったんですが、それが、そうでなくなった、この理由について、教育長のほうから答弁をお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、金石城跡地の活用についてでございますが、御指摘のとおり、過去、複数回にわたり御質問をいただいております。国史跡金石城跡の南東に所在していました巖原幼稚園は、1918年に開園し、2014年4月、巖原町日吉地区に移転した後、同年に解体、整地され、その跡地は、2015年4月から2018年3月まで、バスの乗降場所として、また、博物館建設中は、作業ヤード、資材置場として、仮に使用してまいりました。

金石城跡周辺の環境につきましては、博物館駐車場、巖原体育館、清水が丘多目的広場、市役所駐車場に加え、対馬市交流センターなどの有料駐車場があり、乗用車の駐車場環境は、比較的確保されていると認識しております。

一方、バス駐車スペースにつきましては、現在、対馬朝鮮通信使歴史館横に駐車場を整備しており、来年度4月にはバス3台が駐車できる予定であります。

過去には、巖原幼稚園跡地での乗降時、利用時に、砂ぼこりや排気音で近隣住民の皆様に御迷惑をおかけしたこと、橋や石垣等への接触事案も発生しております。また、小宮議員の御尽力によりまして、観光バス事業者のほうの協議会を立ち上げていただきました。そのことで、西の浜駐車場の利用ができないかということで、協議も進められているというふうには聞いてはおりますけれども、その後がちょっとまだあまり先に進んでいないということをお聞きしております。

今後におきましては、こうした実情を踏まえながら、観光バス事業者団体の動向を注視、検証し、金石城跡地の利活用について、引き続き、文化庁等との関係機関との協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

私のほうからは以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 大浦議員の質問にお答えします。

峰公認陸上競技場の利用状況についてでございますが、峰公認陸上競技場は、従来の土のトラックから全天候型のトラックへ改修を行い、平成29年6月10日から全天候型トラックの使用を開始しております。

改修前と改修後の利用状況につきまして、前後2年間の状況をお伝えします。

改修前の平成26年度が申請件数58件、利用者数が7,847人、平成27年度が申請件数32件、利用者数が6,915人となっております。

全天候型へ改修後の平成29年度は、申請件数が91件、利用者数が8,509人、平成30年度は申請件数が110件、利用者数が4,330人となっております。令和2年度以降の新型コロナの影響で各種大会が中止されるなど、利用件数や利用者が大幅に減少しておりますが、令和5年度においては、利用件数や利用者数も以前の状況に戻っている状況でございます。

人口減少により利用者数の大幅な増加は難しいと考えますが、利用件数については増加傾向にあると認識しております。

全天候型への改修による効果といたしましては、雨天でも使用可能になったことが上げられます。土のトラックのときには、雨天の場合、大会の実施等の判断が難しく、実際に中止となる場合も多くございました。しかし、全天候型に改修を行ったことで、雨天時でも大会の中止や延期がほとんどなくなったため、運営側の負担が減りました。競技者も再度調整を行わずに、予定ど

おり大会に臨むことができるようになりました。

中でも最大の効果は、競技力向上につながっていることです。島外で開催される大会の競技場のほとんどが全天候型であり、土のトラックとはスパイクが異なり、走り方も変わってくるため、本来のパフォーマンスが発揮できないことも多くありました。全天候型の競技場となったことで、日頃から全天候型のトラックでの練習が可能となり、島外大会でも競技場の違いによるハンデが克服され、対馬市の陸上競技力向上に寄与しているものと考えております。

次に、中学校駅伝大会の開催場所についての御質問ですが、中学校駅伝大会の開催、運営等は、中学校体育連盟で行っております。そのため、中学校体育連盟に確認をいたしましたところ、会場を峰から豊玉総合運動公園の周回コースに変更した理由は、選手の安全確保であるとのことです。

大会前の試走及び大会本番において、過去には何度も選手と車両が接触しそうになる危険な状況が発生しておりました。そのため、中学校体育連盟としては、事故が起きてからのコース変更では遅いとの判断により、選手や応援者の安全面を第一に考え、令和2年度の大会から豊玉総合運動公園内での実施としており、現在は安全に運営ができているとのことです。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 2人の議員の質問と重なることがないように、できるだけ違うことの範囲で絞った質問をしてみたいと思います。

ちょっと引っかけるといいますか、令和4年第1回の定例会の折に、春田議員の市長の答弁の中で、委員会が要望を駐車場として活用できるような方向で、ことを進めたいと思うけども、今のところ、乗降だけというふうな格好の話があっております。それで、委員会と何やら私も分からんもんですから、尋ねたところ、金石城のいわゆる敷地内で、過去の史跡の発掘やら云々をチェックできるような体制を取っていると思われるのですが、本土の大学から3名ほど、それから地元のほうから、対馬文化財保護審査会長、そして技術的な石垣を積むような所属のほうから1名、5名の委員の中でこのことが話し合われて、地元の新たな利用、活用があった場合には、その委員会で検討し、文化庁とも協議して決定するというふうにするんですが、対馬市の方向づけなんです、住民の思いに対して100%これをぶつけていくものか、あるいは調整して物事を持っていこうとするのか、この辺の感触をちょっと市長に聞いてみたいと思います。

ですから、バス業者が従来型の工事をする前、建設をする前の状態にバスはあそこで止まっておったのを私もよく存じておりますが、あの状態ができないようになった、そしてなぜできたか、ここらあたりははっきりしてみたいと思うんですが、いかがでしょうか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 博物館建設中に、ここの幼稚園跡地を活用させていただいたのは、あくまで仮に建設するときの資材置場として、臨時的に活用を許可していただいたということでございます。

実は、対馬藩関連遺産群保存活用計画等検討委員会が、この9月12日、月曜日にも開催をされておりますので、この際に、市のほうからもここの活用についてお願いをしていただきたいということで、教育委員会のほうにもお願いをしていたところ、この検討委員会でもいろいろと議論がされているようであります。

この議論の内容については、教育長のほうから答弁をさせていただきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 失礼いたします。今週の月曜日と火曜日に、ちょうどこの委員会が開催されました。火曜日、議会と重複したために、私、月曜日だけ出席をしております。その中で、ちょうどタイムリーにこの話題を出して、御意見をいただきました。その概要を担当からまとめてもらいましたので、ここで紹介をしたいと思います。

まず、史跡保護の観点からの御意見を4ついただいております。

大手門前広場は、お城に登城するときの道として整備された空間である。ただの広い空間ではなく、貴重な遺構が残る空間である。

2点目は、現存する石垣の状況、絵図に描かれた配置から考察しても、金石城跡の中で最も防御力を高めた空間であり、むしろ積極的にその価値を発信し、見学者に見てもらいたい空間である。

3点目、史跡として守るべき空間として保護されている空間をバス乗降場として活用するという案について、文化財の保護、活用を答申する委員会として積極的に了承することはできない。

4点目、他県、他市でも同様の事例はよく目にするが、いずれも文化庁からは、指定地内に便益施設を整備することについて、不可という指導を受けているという御指摘をいただきました。

私自身も認識が不十分だったと思っておりますのは、教育委員会は、もう少しあの空間、広場が貴重な文化財であり、国指定なんだということを広く市民に周知する努力が足りないという御指摘をいただきました。

以上、その委員会の報告とさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） このことが今までのブレーキであった発言だろうと私は思うんです。非常に、市長の4年の第1回の定例会の発言というのは、委員会ということを非常に会議録の中では出ておりましたが、ここが一つのハードルだなというふうに思いはしたんですが、今の格好は空間という意味ですから、石垣を見るとかそういうふうなことが、駐車場になればそこ

が見えんようになりますよと。そういう場所に大型バスなどを駐車することは遠慮くださいと、簡単に言えばそういうことですよ、教育長。私はそういうようにあなたの説明を取ったんですが、どうですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） あの広場自体が国指定の文化財そのものであるということです。したがって、文化財の中にバスを乗り入れることが認められないという御指摘です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今、清水が丘の多目的広場、そして巖原体育館、これは同じ御殿という場所ですね。御殿跡と書いています。そして発掘調査をした後に自由に申請どおりさせたということで、広場と建築物が建っております。これをどう解釈しますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 旧巖原中学校のグラウンド、そして、現在の巖原体育館も含めて文化財の指定区域になっているんですけども、ここ現在は、以前から駐車場として利用されておりました。今回、新たにその広場のところが国指定の文化財というふうになったために、これについては、新たになったところについては含めないと。従来のところについても、今後、長期的な計画になると思いますけれども、巖原体育館とかグラウンドも含めて整備をされていく中で、これはまだ推測ですけども、おそらく中に車が入れない状況というのが生まれてくる可能性があることを認識しております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今の話は市民一般、私ら含めて理解はできません。車を入れなとか、そういう話では私はないと思う。

もう一つ、確認を取りたいことがあります。市長でも教育長でも結構です。金石城のパンフレットをちょっと見せてもらいました。この中に、説明が、長崎県対馬歴史研究センター所蔵と書いてある昔の地図みたいなのがあります。その一番目にあるのが大手門、枳形虎口というこの場所です。今、駐車場にどうのこうの言っているのは、そういうことでしょうか。

ここにおいては、要は、市道側のほうから敵が攻めてきた場合、大手門、今の櫓門のほうに隠れて鉄砲や矢を飛ばす前に石垣を横に積んでおったと。その石垣に沿って右側に敵の兵が曲がり、それから直進してまた左に回るとい、江戸時代は。しかし、そういうふうなことがあった場合に、その石垣を遮蔽垣という名称の名前ですか、言葉としては。これをどうやら復元するような方向の話はあっているんじゃないですか。その辺は教育長、どうなのかな、それがないと私は話合いはできんことはないと思うんです。その石垣を造ろうという構想はあるんでしょう。いや、はっきり言えませんか、そういう方向があるかないかのことを、誰かが言いよっちゃないですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 大変申し訳ありません。現時点で、私はそのことを把握しておりません。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私も初めて文化財のことで博物館の中に行った折に、遮蔽垣ですか、正式名称は。存じないんですか。教育長、遮蔽垣。いや、こういうことはあなた審議する中で知っとかないかん世界やないですか。そこの石垣が大手門の前、手前、櫓門の前にあったと。それを復元することが、話が出てん話というのは、普通の職員が言うはずないんです。そういうふうな方向があるから、ここの中に駐車場としての方向を止めているなというのは、私はそういうことになればものが言えんなど。

もしそこを造らんならば、私は駐車場の跡地の利用を、先ほど市長が建設する頃の現場の活用の中でそこは使わせたと言うけど、その前に使っていましたから、バスが止まっていたから、そこのことはどういう許可的なことで止まっておったんですかと、私はそういうふうに言いたかったんです。ところが、あなたのほうはそこを触れずに、建築資材置場のどうのこうので、3年間の使用があったというが、その前は、あそこにバスを止めておったんです。もともと観光バスが多くなった。最初は、今のふれあい処の、ちょうどたしか対馬藩の家老屋敷の跡にほとんど集中してバスはおったんです。その後、発掘調査をして、その上に今の施設を建てるというふうな条件で、バスの移動はそのときあったと思います。その辺、あるときには認めて、今回についてはさせない、防御を張っているなというのは、一般質問の、この二、三年の間の空気というのは、そういうふうな感じはするんです。

だから、今、教育長、私は知らんと言いましたが、遮蔽垣、これを復元するというふうな話をちょっと耳にしたんですが、全く知らんちゅうことでいいですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 今回の委員会の中で、私が出席している中で話し合われた内容としては、この文化遺産をもう少しきちんと周知していただけるために、案内板を詳しく設置しようということで、その中に、ここには昔こういう遺跡があったんだということを紹介するという計画は聞いておりますが、復元するということまでは私は承知しておりません。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 教育長と市長に確認いたしますが、委員会はそういうふうな9月12日に方向づけに5項目を掲げて、大手門、枳形虎口、金石城の敷地内のこの土地については、駐車スペースとしては認められないと。こういうことで結論を出したという、委員会の結論ですね。そういうことで取ります。それも別にあつたとおりの話だから。はっきり言えばそう

いうことでしょ。

そうすれば、このスペースは100%もう乗降もできないということになるんですか。ちょっとお尋ねします。入口のほう、乗降。

市長、今、64台の大型バスが走っていますよ。ちょっと調べました。9業者。それも、比田勝の港から巖原にやってくるということなんです。そこらが今から、私は昨日の質問で、どなたかのお答えした方は、現在、今年8月末で4万8,000人ですか、観光客の総数は。部長さん、たしかそういうふうに言った覚えがあるんですが、違いますか。2月からの数字。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

2月の国際航路再開後、入国者数ということで申し上げますと、約5万5,000です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今の対馬を見ておれば、韓国は少し、船会社が3年半も運休されたら倒産しますよ。ですから、船会社は結構苦しんだことになって、大亜高速海運という20年近く対馬を走った会社がおられませんね、今回。そういうようなことで、船の料金が高いため観光客が3年半前よりはどんどん乗らないといううわさは聞いておりますが、しかしそれは回復していくでしょう。

国内のお客さん、これは部長、8月の末でどのくらい来ておるか、おおむねの数字は把握していませんか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

あくまでも国内の航路と空路で降りたお客様の数ということで申し上げますと、これには島内の方も含まれております。あくまで参考ということですが、1月から8月までで15万5,000人ほどという数字になっております。

純粹な観光客という数字とは言えないと思いますが、参考までにお伝えします。

○議員（16番 大浦 孝司君） いいです。結構です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は過去の韓国観光客の最大の四十数万ということ、このときに経済的な消費額を2万3,000円前後で県ははじいておりましたが、約92億、3億の数字、ある数字では100億の数字ということ韓国側は言っておられましたが、今後そのことは、私は最終的には近い将来、元に戻ると思います。

そして、一つ特徴があるのは、大きいホテルができたおかげで、国内客の流入は、私はさらに増えると思うんです。以前は、韓国の旅行会社が全部宿を抑えて、入ろうに入られんやっったとい

う話はしょっちゅうしていましたから、これが少し解消したら、韓国と国内と多数、世界からやってくるように思います。そうしますと、今の水産業が120億割った数字が出ていますよね、水揚げ高が。私はこれを抜く勢いが近い将来、出てくると思いますから。

だから、市長、今の委員会の発言、決定したこと、憂慮するちゅうですか、困ったことだという結論は、私は出さないかんとします。それで、ちょっと申し上げるんですが、博物館と駐車場という言い方はいかんとですが、歴史の史跡その他いっぱい、あの近辺にあるもんですから、どうしても人が集まる場所と思います。ところが、韓国の観光客は、この実績として、博物館にどれだけ入られたかの概数をちょっと教えてください。国内でなくて、韓国の観光客。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

4年度の実績ということで申し上げますが、入館者数は3万8,302人となっております。韓国のお客様と国内のお客様を分けてはカウントができませんもので、総数で3万8,302人という数字となっております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 令和4年度の実績がそういうふうなこととなっておりますが、令和3年3回定例会の船越議員の質問に対して、入場をこのくらい常に1年間あってほしいというのは7万人です。一応。これは全員協議会か何かで出した数字じゃなかったらと思うんですが、そして40億の総額が本体工事含め全てかかっていると。維持管理費、1年間必ずお金が要る。そうしますと、これも全協の数字で書いていますが、5,900万という数字、これは当時の数字だと思うんですが、一応、今もそのくらいかかるだろうという見込みはいいですね。概略。そういうふうなことになれば大きな穴が開くわけですが、例えばこの5,900万で、入場した収入総額、これちょっと令和4年の実績で結構ですから。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

令和4年度の博物館の使用料、これは観覧料でございますけれども、955万2,290円、約960万円です。これは平常展と特別展、あと年間観覧券を足したものでございます。（発言する者あり）約960万です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 年間維持管理費の6,000万近い金が要りながら、1,000万弱の収入であるということでもあります。そうしますと、これはその補充というのは、特別何もなければ一般財源でカバーするということになりますね。どうですか、その辺の一般的

な常識の話なんです、そういうことで結構ですか。だから収支の差が、補助金関係がこれにあるということになれば、最後に、対馬市が幾らぐらい令和4年度のお金を持ち出さないかんやっ  
たか、単独で。これがあれば教えてください。それで結構ですから。補助金関係はもう抜きにし  
てお願いします。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

先ほど、使用料の話をしていただきましたが、このほかにも、県が2階に、長崎県対馬歴史研究セン  
ターが入っておりますので、その分の負担金とかもございまして、歳入の総額で申し上げます  
と、4,260万円でございます。歳出のほうは、人件費等も入ってきますので、約1億  
7,800万円という数字になります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私、今のまま進めば、あまりいいことがないんじゃないかなど  
いう思いがするんですが、時間がありませんが、少し意見を市長にいただきたいと思ひます。

韓国の国は、公共施設、例えば、博物館とか、そういうふうな施設に、公共料金を設定して入  
場するという事はない、もしくは少ないというふうなことを聞いているんですが、この問題は、  
私は実績として今まで、万松院には入っておらんということは耳によくしていたんです。博物館  
に対しては、ちょっと考えを変えんといかんっちゃないんかなと思うんです。

私の思いは、韓国という国が入場料を取る公共施設には入らないというふうな事の中で、そ  
れを私は入らせる仕組みをつくられると思ひます。これは、今、部長、私が聞いている範囲では、  
現在、対馬の博物館に対して一般客が550円ですかね。そして団体客が440円、1人。歴史  
館は220円やけど、ほか、子どもさんは無料ですかね。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、阿比留忠明君。

○観光交流商工部長（阿比留 忠明君） お答えいたします。

歴史館のほうは、高校生、小学生までは110円をいただいております。未就学児については  
無料ということでございますが、博物館のほうは、小中学生が220円をいただいております。  
いずれも未就学児のほうは無料で御観覧いただけます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） ちょっと時間がない中で話を聞いていただきたいんですが、韓  
国の観光客の乗った方々のバスを、1台40人から50人として、この方々を旅行会社が望むな  
ら、全部受け入れる仕組みを私はつくるべきだと思ひます。というのが、金の問題ですから。対  
馬市のほうが団体をどういう金額で割引くかは、もう1回検討し直して、韓国の国のほうにも、  
私は釜山市に協議をお願いに行って、こちらに来られる大人と子どもの料金を、この内容を過去

の対馬、江戸時代に非常に繋がっておった、非常に大切な歴史の証です。これはもう完全に学習です、子どもの。そして、大人の確認も含めて、大人、子どもも含めて韓国側の公共施設に入る仕組みはおそらく国が措置をしていると思うんです。ただでは入らせんわけですから。対馬の場合、これを半分は対馬が出すと、半分は旅行会社と韓国の国、これを話をつけることを私は手をかけてほしい。

そして、乗ったバスが全部博物館に入るようなことが起これば、私は逆転することがあると思います。そこらをひとつ考えてもらえませんか。今日の話で、出せ言うてうんちゃ言いませんけど、そうやけど、そういうことを考えて私はいいと思います。

そして、あと4分しかありませんから、市長、私は今日の話の中で前に進まない、進まない理由が金石城跡の史跡の中に駐車することを認めないというその委員会のことと、これを将来的には私はバスのスペースがない限り観光事業はスムーズにいかないという思いがございます。今日のことを確認した中で、対馬市役所のいわゆる将来の新設。このことが以前から上がっておりまして、この問題を今の格好で進んでおりますが、駐車場ができとなれば、この問題を進めていかないかん私は方向になっておると思います。

百数十億を超える観光事業が完成したような絵が描けております。それに駐車場がないと、そういう話は私は通らないと思うし、できれば新庁舎の移転、これを厳原市内の振興局の合同にするか、そしてそれに敷地が足りない場合は、一部、今の部を厳原に置く部とそれからその近辺に置く部、これを分けて検討することが私は必要と思います。そうしないと、観光対馬という厳原をメインとしたこの絵が描けないんです。

さっき言いましたように、壱岐はそれだけのことをしておりました。それは土地があるからでしょう。しかし、少ない中での対馬の土地の使い方は、そのような思い切った決断をせないかん、それをどう思うか、私はそういうふうな方向づけを転換せないかん時期が来たと思います。今の話の中で。

ですから、一遍はバス業者と対馬市と話をされて、その後、どう市はかじを切るか。これは今の状態で交番前で乗ってくれとかいう話は、私は通用せんと思います。それはこれだけの大きなことをつくった市の責任として考え直してもらわないかんと思います。

残り1分ですが、市長、何か今の私の話があれば教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、初めに、先ほど教育長のほうから9月12日付での検討委員会での4つの意見等を述べさせていただきました。この中でも、特に、文化財の保存、活用を答申する委員会として積極的に了承することはできないという文章ですから、ここら辺も完全に駄目だよというところまでは、私、まだこれは至っていないのかなという気持ちもありますので、今

後、協議をすることも可能ではないかというふうに思っております。

それと、対馬市の庁舎のほうにつきましては、今、市民も巻き込んだ検討委員会のほうでいろいろと議論を重ねていらっしゃると思いますので、私がここでいろいろと言うことは差し控えたいというふうに思っております。

以上です。

○議員（16番 大浦 孝司君） 終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時57分散会

---